

# 木曾復興応援ツアー(報告)

【開催日】平成28年10月20日(木)～21日(金) (1泊2日)

【募集人数】29人 (一般から公募)

【行程】(10/20)名古屋→赤沢自然休養林(散策)→牧尾ダム  
→おんたけ休暇村

(10/21)おんたけ休暇村→松原スポーツ公園(献花)

→うぐい川溪谷(ウォーキング)→名古屋

## 【実施結果】

(赤沢自然休養林) 木曾川支流小川のさらに支流となる赤沢流域に広がる国有林の中にある赤沢自然休養林。数ある散策コースのうち、ガイドさんおすすめコースの踏破を目指しスタートしましたが、ガイドさん2人の巧みな話とその話を聞いての質疑に花が咲き、時間の関係でショートカットし約2kmを歩きました。

(牧尾ダム) 愛知用水の水源「牧尾ダム」の貯水量は約9割と平常より多い貯水量で噴火の影響は見て取れない水面の美しさでした。また、王滝村村おこし推進課長から噴火時の状況、噴火後の状況を紹介があり、御岳山の立ち入り規制の範囲も小さくなってきているが、観光客の数は戻らないと厳しい観光産業の現状説明がありました。

(休暇村で1泊) 希望者(20名程度)は19:30から、寒さを我慢して、休暇村の職員さんによる解説で星空観察を行いました。周りに明かりが少ない王滝村で見る夜空の星は、明るく、くっきりと見えたように思います。

(うぐい川溪谷) 牧尾ダムが造られている王滝川支流の「うぐい川」の水は「無い」と錯覚するような透きとおった水でした。うぐい川に沿った森林鉄道軌道敷跡の林道を休暇村のインストラクターの案内により、健脚班とのんびり班の2組に分かれて、片道2時間、ウォーキングしました。のんびり班は樹々の説明を聞いたり、キノコや栃の実を拾ったりしてゆっくりと歩きました。健脚班はひたすら歩いたおかげで景色の良い河畔で弁当を広げ昼食となりました。昼食後、林道を折り返し、予定時刻に出発地点に戻ることができました。

## [2016 木曾復興応援ツアーの思い出]



赤沢自然休養林の散策開始



森林鉄道が走る赤沢自然休養林



牧尾ダムと王滝村の現状を聞く



おんたけ休暇村からの眺望



水のきれいなうぐい川（床堰）



うぐい川河畔でお弁当タイム